



本幼稚園は教育基本法及び学校教育法に従い幼児教育を行うことを目標とし、幼児期の3才～5才迄の極めて大切な時期に形成される「興味関心・意欲・社会ルール・生活の秩序等々」を、人格形成の基礎と考え、その大切な幼児期の教育を且つて、最も大切な人格の芯（徳育）を育てるものである。

1. 教育目標

当園は2歳～5歳の障害児をも含めた子ども達が、共に生活する混合クラスであり、さまざまな子どもが生活する中で思いやり、いたわり、尊敬、憧れといった心を育て、個性や人格を自らの努力で育ててほしい子どもが主人公の幼稚園を目指します。
子どもの内なる叫びは「わたしがひとりのできるように手伝って」です。すべてを偶然に任せるのではなく、子どもの成長に科学的注意と世話を向けつつ子どもの自発的な活動を促し、行事やカリキュラムに追われずに、ひとりひとりがじっくりとくり返し、満足のいくまで活動が続けられるよう、私達はよりよい自立への援助者として、深い愛情で子どもを見守り、適切な手助けで子どもと共に学ぶことを目標とします。

2. 評価項目・実践評価

評価項目	評価	評価状況
1 教育目標・方針	A	どの先生方も子ども一人一人に寄り添って、園の方針に則り適切な保育をしていると感じます。
2 指導要録作成	A	毎日の子どもたちの様子や行動を細やかに、掴み先生方間で共有されています。一人一人の成長の課程に沿って適切な計画を練り、保護者にも共有してくださっています。
3 教育研修・研究	A	忙しい合間や園の長期休みを利用して遠方の外部の研修や講習会に出かけて知識や技術を身につけていると伺っています。

4 教育指導	A	常に子ども一人一人に目を向け、細やかに適切なタイミングで指導してくださり、保護者にも子どもとの関わりや声のかけ方を指導してくださっています。
5 報告・連絡・相談	A	連絡ノートの頻度は多く、心配事や相談事にはすぐ対応していただけます。園での子どもの様子も細やかに記載していただけるので安心です。
6 安全・衛生管理	A	園舎、園庭は古くからありますが、定期的に修繕、工事等がなされています。衛生面も毎日丁寧に掃除をされています。
7 その他	A	異年齢の子どもや特別支援のお子さんと一緒に過ごすことで情緒を育てているのではと思います。一人一人と向き合い保育している園の先生方の指導に安心できます。

評価基準

A	達成できている
B	やや不十分
C	不十分

4

①	子どもと生活を共にし遊びを共有しながら理解につとめる。	A
②	一人一人の子どもの独自性に配慮し子どもに応じた対応を行う。	A
③	障害を持つ子どもの理解につとめ、障害に応じた配慮・対応を行う。	A

5

①	登園時に子どもの体調について情報を保護者から得て、特に病み上がりの子どもには配慮している。	A
②	保護者からの投薬依頼をきちんと行い、体調の変化がないか注意深く見守っている。	A
③	けがや体調不良の子どもが病院での治療が必要な場合は保護者に迅速に連絡をしたり降園後、適切に報告する。	A
④	子どもの生活を保護者に伝えたり、保護者の思いを聞きとるように連絡ノートを書いている。	A

6

①	遊具・園庭の安全点検をし、遊具の破損は見逃さずに補修されている。	A
②	子どもの生活の跡を振り返りながら清掃をし、翌日の準備がされてる。	A
③	水場・トイレが不清潔になっていたり、汚れていたりせず、常に清潔に清掃されている。	A
④	衛生に配慮し、子どもが口にするもの（コップ・歯ブラシ等々）の衛生やお弁当の管理に配慮されている。	A

7

①	保護者と話す時、節度ある言葉使いで園の方針に従って話される。	A
②	保護者に細かく目配りをして子育て支援を行って来られている。	A

幼稚園関係者評価採点表

学

令和 7 年度

A	達成できている
B	取組みはあるが結果が不十分
C	取組みが不十分

記入者 實形 菜衣

令和 7 年度保護者会会長)

1

①	園の教育方針が伝わって、共感出来ている。	A
②	園の教職員が教育方針に添って保育ができている。	A
③	保育者として一貫した態度で子どもに向き合い、自分の都合で善悪の判断を変えたり、子どもとの約束をたがえたりしていない。	A

2

①	年間・毎月・毎週の保育計画を明確である。	A
②	子どもが明日の保育を楽しみにしながら喜んで登園できるよう、季節や子どもの関心・発達段階を考慮し、週や月ごとの生活や活動がどうなるか予測し保育計画を立ててる事が見える。	A
③	子どもの一日の姿を思い出しながら、客観的な保育記録がつけられ、保護者に伝えられている。	A
④	子どもの成長発達を学期ごとや年度ごとに簡潔にまとめ、評価表や要録をつけ、保護者と共に考えている。	A

3

①	保護者に対しての研修会・講習会が開催されている。	A
②	保育者に足りない技術や知識、外部研修や本・新聞等で得た情報を伝えて来られている。	A
③	環境整備や教材準備など、遅滞なくされている。	A